イラストミニガイド

朝井閑右衛門（あさいかんえもん）

横須賀美術館

朝井 閑右衛門（かんえもん）

（1901～1983）

撮影：伊藤勉黄

本名は「浅井 實（みのる）」

相当な変わり者

お酒好き

家の中にいる時は
いつもパンツ一丁

若くして成功を
おさめるも
画壇からは距離をおいた

個展はやらない

画集も出さない

人形、骨董品
などを収集

超厚塗り！

気に入ったモチーフは
とことん追求

水墨画、古陶磁も
愛する

文学にも造詣が深い

文人の友人多数

娘 2 人

神経痛、狭心症、
糖尿病に苦しんだ

享年 82

＜年表＞

1901 年　大阪府に生まれる

1919 年　上京し、本郷洋画研究所で学ぶ

1926 年　第 13 回二科展に初入選

1934 年　光風会展、帝国美術院展覧会に入選

1936 年　文部省美術展覧会に大作《丘の上》が入選し、
文部大臣賞を受賞

1945 年　上海で終戦を迎え、翌年帰国

1947 年　横須賀市田浦に住む。この年、光風会の仲間と新樹会を結成
この時期、「電線風景シリーズ」「ガラス台鉢」を多く手がける

第 10 回新樹会 (1956 年)
撮影：石原八束

1962 年　国際形象展が組織され、同人となる

1966 年　鎌倉市由比ガ浜にアトリエを建て転居
「薔薇」「学者シリーズ」を多く手がける

1983 年　鎌倉市の病院で死去

◇画家の人生と作品◇

幼少期

本人があまり語りたがらず、幼少期のことはあまりよくわかっていない

- 紀州藩士の流れを汲む家の長男として大阪に生まれる
- 父親の事業の失敗により広島に転居
- 病弱で学校に通うのもままならなかった
- 13 歳の時、両親が離婚

上京

東京に身寄りはなかったが、友人、知人の家に居候しながら、悠々自適な修行時代を過ごす

- 1919 年、18 歳で上京
- 友人、知人の家を転々とする
- 1928 年〜、小田原で仲間たちと過ごす
- 銀座の裕福な友人宅に居候し、洗練された都会を知る

＼二科展初入選！／

《廃園に於て》1926、平塚市美術館蔵

《積藁のある風景》ca.1928

最初の成功

＼一躍画壇の寵児に！／ 35 歳

1936 年 270×350cm

500 号の超大作！

文部大臣賞受賞！

大きすぎてアトリエから運び出せず、柱をのこぎりで切って搬出。会場の搬入口からも入らず、特別に正面入り口から搬入した

《丘の上》1936、神奈川県立近代美術館蔵

戦争

戦時中は戦地に行くことはなく、軍などの委嘱を受けて中国に渡り、絵を描いて過ごした

- 1938 年、戦争記録画制作のため、小磯良平、向井潤吉らと上海へ赴く
- 1941 年、永富花子と結婚
  1942 年に長女、1944 年に次女が生まれる
- 戦中、中国に 5 回渡る。終戦は上海で迎えた
- 1946 年、引き揚げ船で帰国

《豊収（誉ノ家族）》1944

田浦時代 1947-1966

帰国後、田浦に腰を落ち着けた朝井は、友人たちと「新樹会」を結成。そこを長く作品の発表の場とした。しかし、中央の画壇とは距離をおき、「隠棲」ともとれるような生活を続けた

解説

「電線風景」は、田浦にある京急線とJRの電線が交差した場所を題材とした朝井の代表的なシリーズ。キャンバスの布をつぎ足し、額縁まで絵を描いているものも

《電線風景》
1960、神奈川県立近代美術館蔵

電線がもはや意志をもった生命体のようにのたうっている

電線の下に描かれたオオカミ？怪物？のような不思議な影は、この樹木のデッサンが徐々に変化して生まれた

《田浦風景》1950

解説

背景の建物はおそらく、進駐軍に接収された旧下士官集会所のE.M.クラブ（現在のベイスクエアよこすか）。京急線の汐入駅付近で、米軍基地やドブ板通りが近いためにアメリカ人も多くいた。1950年代の横須賀風景を描いた貴重な油彩

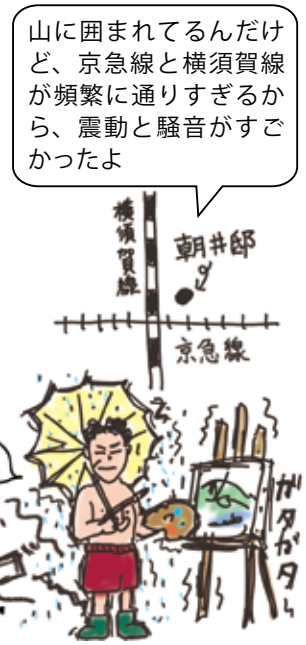
白いセーラー服のアメリカ兵と女性が手を繋いで歩いている

《街頭》1951

解説

アトリエは、三方を山に囲まれ、西から東に流れる小川に沿って開けた小さな谷戸の中にあった。平らではない土地で、目の前に立ち上がってくるような独特の風景を描いている

《田浦風景》ca.1947



由比ガ浜時代 1966-1983

広い家に住むのが念願だった朝井は、由比ガ浜に庭付き300坪の家を買った。大好きな海が近く、骨董品屋も多かったことがこの土地を選んだ理由だった

《祭》1977年

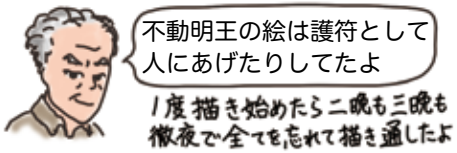
この時期に「厚塗りの閑右衛門スタイル」完成

不動明王を描く時は…

私は朝も夜も真夜中も
心をキレイにして
描いて描いて描いた
祈りの如く描いた
これだけが自分の画で
ある

（没後見つかった古いノートより）

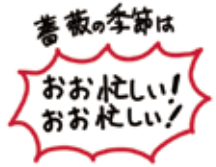
《不動明王尊像》制作年不詳、横須賀美術館蔵



《寒山拾得》（右幅）制作年不詳

解説

朝井は決して温室育ちのバラは描かなかった。描くのは露地に咲いているものや、自分で育てたものだけだった



…塗っては乾かしを繰り返す

…赤い色は始めは使わず、だんだん攻めていって最後に効かせる

《薔薇（法華壺）》1981年、神奈川県立近代美術館蔵

◇代表作解説◇

「誰も描かないものを描け」

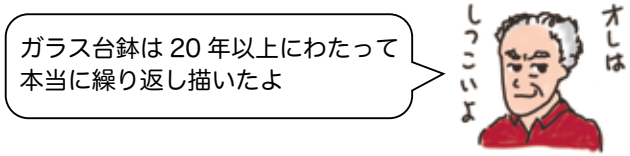
「はったりでもいい。
人のしないことをせよ」

「挿絵にならざること」

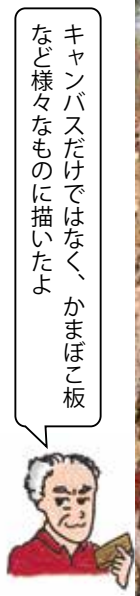
《ガラス台鉢》1960's

解説

「ガラス台鉢」は、朝井が何度も取り組んだモチーフの一つ。手元に置いたガラス台鉢に干からびた果物を入れて配置を変え、推敲を重ねている。本作は大振りで迫力ある一点



ドン・キホーテは自画像のようなもの



《ドン・キホーテ》制作年不詳

解説

「ドン・キホーテ」は、朝井のお気に入りのテーマであった。しかし小説家・セルバンテスの物語である「ドン・キホーテ」をそのまま描いているわけではない。時代と共に変遷し、どんな社会にも存在するドン・キホーテ的人格を描いている、と本人は述べている

◇制作スタイル◇

★

庭もかなり広かった

★

アトリエには立派なマントルピースも

☆　草むしりする時も半裸

★

お気に入りの赤い帽子

愛用の道具

☆撮影：美術出版社　酒井啓之　★撮影：久野太郎

朝井閑右衛門の「友人たち」

朝井は文学にも造詣が深く、著名な詩人たちと深く交流した。彼らの姿をとらえた詩人シリーズは朝井の人物画の中でも一際光彩を放っている

《草野心平之像》1960、いわき市立草野心平記念文学館蔵

詩人
草野心平

長い観察を経て取り掛かるとなったら一気に仕上げた

親友・草野の朝井を評した名言

彼は絵の具を耕した

三好さんもスケッチは取らず、ただ何度かしゃべったり飲んだりしているうちに人物像を把握し、一気に描いたよ

詩人
三好達治

《詩人・三好達治像》1959、福井県ふるさと文学館蔵

朝井閑右衛門の「独特なコレクション」

朝井のアトリエには人形や壺など一見奇妙なもので溢れていたが、それは全て朝井が選び抜いた「仕事のための大切なモチーフ」だった

《赤絵壺》制作年不詳

何度も描いてもらったわね〜

対象に惚れ込んで、見て見て見尽くすんだ！

《フランス人形》制作年不詳

画家・岡田三郎助にもらった人形顔を描いたのは朝井

絶筆

最晩年は病状が悪化し、歩くこともままならなくなったが、最後まで描く意欲は衰えず、この絢爛豪華に咲き誇る「薔薇」を描ききり、五日後、他界した

最後に置いた色は
セルリアンブルーだった

《薔薇（嘉靖青花唐子紋中壺）》1983

※作品の所蔵先に記載のないものは全て横須賀美術館蔵

朝井閑右衛門と横須賀美術館

1996年に洋画家・朝井閑右衛門の油彩約300点、水墨画約280点、素描、資料がご遺族から横須賀市に寄贈されました。それが大きなきっかけとなり、横須賀美術館設立へとつながりました。現在、横須賀美術館には朝井閑右衛門記念室があり、年4回展示替えをしながらテーマを設けて作品展示をしています。

横須賀美術館

神奈川県横須賀市鴨居 4-1
TEL.046-845-1211
開館時間：10時～18時
休館日：毎月第一月曜日（ただし祝日の場合は開館）
12月29日～1月3日
入館料：展覧会ごとに異なります。

文・イラスト 杉全美帆子　©2023　YOKOSUKA MUSEUM OF ART